

はじめに

この辞書は、現代日本語の基本語の中でも、特に多義性が高く、包括的な理解が困難であると思われる語を選び、中心義を中心とした語義のネットワークを示し、学習者および日本語教師に対し、語の理解を深め、運用を容易にすることを目的に作られています。同時に本辞書は、日本語辞書における新しい記述の方法を提案するものでもあります。第1巻では名詞 121、第2巻では形容詞・副詞 84、第3巻では動詞 104 を選び掲載しています。

従来、語彙は授業で扱われることが少なく、語彙学習は辞書などを用いながら、学習者が自分で行うことが少なくありませんでした。初級の学習者は教科書巻末の単語訳や対訳辞書、中級以降の学習者は電子辞書など日本人向けの大辞典を利用して、独学で語彙学習を行っていることが多いと思います。そのような中、学習者が一人でも語彙学習を進められるような有効な辞書はほとんど開発されてきませんでした。日本語の教員も語彙をどのように教えたらいいかと日々悩みつつも、参考とすべき辞書を見つけ出せずにいたのではないのでしょうか。

いわゆる日本語や国語の大辞典と呼ばれるものは、語義を古い順から記載したり、例文も日本語母語話者用のものであったりして、学習者の理解や運用に十分供するものとは言えませんでした。増え続ける語義をただ羅列することは語義のインフレーションを招き、学習者にさらなる負担を与えるのみで、意義の関連や全体的な意義像を示していないのが現状です。

とりわけ基本語彙は数多くの語義が辞書に掲載されており、学習者は中心義のみを覚えてその他の派生義は一向に覚えられない、母語の対応語が有する語義は覚えるが、そうでない語義は覚えられない、教えられた語義は覚えるが、その他の語義は覚えられないなどといった困難を感じてきました。さらにその語が持っている文化的な背景知識などについてはほとんど学ばれることなく置き去りにされていました。

そこで私たちは多義語に関する認知言語学の理論を用いて、学習者にとって真に重要な基本語のみを厳選し、その上で、中心義は何か、派生義にはどのようなものがあるか、語義の派生はどのような理由で展開したかを明示することで、複雑な多義語の意味を「意味のネットワーク」として一まとめに記述する辞書を編集しました。これにより、学習者は上述の語彙学習の困難点を克服し、中心義から派生義に至る語義全体を見通すことが可能になります。併せて本辞書では例文も学習者の視点から使用頻度やコロケーション（共起）、難易度を考慮して選ばれていますから、読んで理解しやすく、かつ実際の言語運用にすぐ用いることができます。また現代では用いられなくなった用法や、学習者にとってニーズの低い用法などはあえて掲載しないようにしていますから、最も効率よく語彙学習を進めていくことを可能にしています。さらに必要に応じて語の説明の最後には文化ノートや用法ノートを付し、その語が持っている文化的な背景知識や注意すべき文法項目も知ることができるようになっています。

私たち編集委員はこの試みを極めて意義あるものと捉え、出版元である株式会社アルクの全面的な協力の下、4年の月日を費やして世界中の学習者および先生方に歓迎される辞典を作成したいと考え本辞書を執筆してまいりました。最後になりましたが、このような執筆の機会を与えて下さった株式会社アルク日本語書籍編集部の大塚武司氏、田桑有美子氏に心から感謝いたします。

森山 新（主幹）・荒川 洋平・今井 新悟

目次

はじめに	2	かよう	152
本書の構成	6	かわる	155
あう	22	きく	158
あがる	28	きる	164
あく	36	くもる	172
あげる	40	くる	174
あそぶ	49	くるう	179
あたる	52	けす	182
あやまる	61	こす	186
いきる	63	こたえる	189
いく／ゆく	66	さがる	192
うかがう	71	さげる	196
うく	74	さす	200
うごく	79	さます	208
うつ	83	さわる	210
うつす	90	しずむ	214
おくる	95	しめる	217
おす	99	すぎる	222
おちる	104	すすむ	225
おとす	109	すてる	228
おりる	114	すます	231
おろす	118	(～)する	234
かえる	123	せまる	242
かかる	126	せめる	246
かける	138	そう	249
かためる	149	だす	252
		たつ	261

たてる	270	はかる	419
ちがう	277	はしる	422
つく	280	はずす	426
つくる	290	はなす	429
つける	298	はなれる	432
つまる	310	はらう	436
できる	313	ひかる	441
でる	318	ひく	444
とおる	329	ふく	454
とじる	334	ふる	458
とぶ	337	まける	462
とまる	345	まよう	465
とる	348	まわる	467
なおす	364	みえる	472
ながれる	366	みる	476
なる	370	むかう	483
なれる	374	めぐる	486
ぬく	377	もつ	489
ねる	382	やく	493
のこる	384	やる	498
のぞく	387	ゆるす	502
のぞむ	390	よぶ	504
のびる	393	よむ	507
のぼる	399	よる	511
のむ	403	わる	515
のる	407	われる	519
はいる	412		

Structure of This Book

Entry

104 basic verbs with many meanings are presented as target words.

Verb type

The entry's verb group and transitivity are indicated here.

Difficulty level

Each entry is assigned a difficulty rating of 1 to 5, with 5 being the easiest.

Kanji

Kanji representations of the entry are listed here. The one in boldface best expresses the entry's meaning. Kanji capped with a dot are not Jōyō Kanji.

Readings

The readings of the boldface kanji are listed in katakana for on-yomi and in hiragana for kun-yomi. Examples are given in parentheses.

When the entry is a kun-yomi word, it is listed here again, along with an example.

行く、往く、逝く ※「往く」は特別な読み方
 コウ(行進)、ギョウ(行列)、アン(行脚)、おこな(行う)

0 目的地に移動する

1 死ぬ

2 風・手紙などが届く

3 道・乗り物が通じている

Network diagram: The way that each meaning derives from the core meaning is shown with arrows. The actual derivations are more complicated than indicated, but have been simplified where possible in keeping with this book's design as a learner's dictionary.

Core meaning: This is the meaning in modern usage that is considered the central meaning from which other meanings derive. It is marked with **0**.

Primary derivatives: These are the major meanings that derive from the core meaning, **0**. They are marked with numerals, as in **1**, **2**, **3**.

Secondary derivatives: These are extended meanings that stem from the core meaning or the primary derivatives. Since they represent comparatively slight differences in meaning that do not qualify as stand-alone derivatives, they are subordinated to **0**, **1**, **2**, **3**, etc. and are marked with letters of the alphabet, as in **0a**, **1a**, **1b**, **1c**.

Meaning

Each meaning presented in the boxes in the network diagram is listed here again. To facilitate understanding, translations are provided in English, Korean, and Chinese.

Relationship with superior meaning

This line describes how the meaning derives from the core meaning or the primary derivative.

Example sentences


Example sentences are provided for each meaning presented. Particles frequently used with the entry are highlighted in boldface.

Compounds, idioms, etc.

Compound words, idioms, and other expressions the learner should know are also given.

1 切って開ける
cut open / 잘라서 열다 / 切开, 拆开, 割开等

2 切るだけでなくその後にも開ける



- はさみで手紙の封を切る。
- かんざりでかんづめのかんを切る。

封切る **【動】** : 映画上映が始まる cf. 封切 **【動】**
例) 映画が封切られた。

【動】 火ぶたを切る : 戦いなどを始める * 火銃の火ぶたを開き銃撃を始めたことから。「切る」は「開く」という意味。

Illustration

An illustration is provided to clarify the meaning.

For most entries, the first example sentence is used as the basis for the illustration.

Also, for most entries, the illustrations can be used as a quick guide to the common meaning (schema) shared by the various meanings of the entry.

Related expressions

Extra compound words, idioms, transmuted words, etc. that weren't covered in the meaning spaces are presented in these separate boxes.

関連語句

似通う **【動】** : 互いに、よく似ている 例) 二人は好み相似通っている。

オノマトペ

• せっせ : 休まずに一生懸命にする様子 例) セミナーへせっせと通う。

Onomatopoeic expressions

Onomatopoeic expressions frequently used with the entry are listed here.

用法ノート 閉める、閉じる、閉ざす、塞ぐ ※「しめる」用法ノート

文化ノート 日本の玄関は本来開き戸（ドア）でなく、引き戸であるため、「(玄関の) ドアを開く／閉じる」ではなく「(玄関の) 戸を開ける／閉める」と表現される。

⇒ あく (p.36)、しめる (p.217)

Usage notes

Distinctions in usage and other pointers on usage of the entry are given here.

Cross-reference

Other entries that can be of reference (synonyms, antonyms, etc.) are listed here with their page number.

Culture notes

This section provides background information on how the entry is used in the context of Japanese culture.

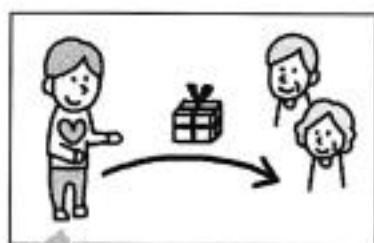
Distinctions in kanji usage

In cases where an entry has multiple kanji listed for it (e.g., 生きる : 生きる 活きる), users should refer to the example sentences to gain an understanding of the distinctions in usage between those kanji. Particularly important distinctions are explained in the supplementary information (marked with asterisks).

Illustrations

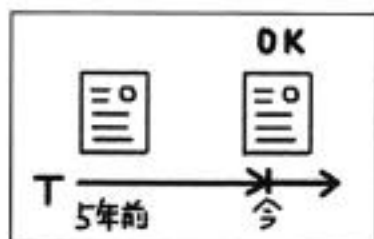
(1) In general, the subject of the action, event, or state is depicted on the left side of the illustration (see below).

Illustration for おくる 1



This part shows the subject of おくる.

(2) Arrows with a “T” on the left represent time frames that help express the meaning.



Symbols

- Compound words, etc.
- 句 Idioms, proverbs
- * Supplementary information
- ⇔ Antonyms
- ⇨ Cross-reference
- cf Transmuted words (changed into a different part of speech, such as: verb to noun, or noun to verb)
- / Words that can be used in the same pattern Ex: 二人は気/馬/肌が合う。
- ☐ Collocations Ex: のる ☐ [動物] ラクダ/ロバ/馬に乗る。
- ≡ Synonyms
- [] Omissible words/particles Ex: 格好[を]つける。
- () Contextual description Ex: (ジグソーパズルで) ここに合うピースはどこ？
- < > Conditions for usage or conjunction. Below are the main symbols used in this part.
 N: Noun, V: Verb, V~~ます~~: Verb stem (Ex: 書き、行き、食べ), Vて: *Te*-form of verb, イA: *I*-adjective, イA~~ます~~: *I*-adjective stem, イAく: *I*-adjective stem + *ku*, ナA: *Na*-adjective stem, 普: Plain form

Parts of speech

For compound words, etc. (marked with □), the following symbols are used to indicate the parts of speech. (Collocations, etc. are excluded.)

- 名 Noun
- イ *I*-adjective
- ナ *Na*-adjective
- 副 Adverb
- 体 Adnominal
- スル *Suru*-verb
- 動Ⅰ Group I verb (*U*-verb)
- 動Ⅱ Group II verb (*Ru*-verb)
- 動Ⅲ Group III verb (Irregular verb)

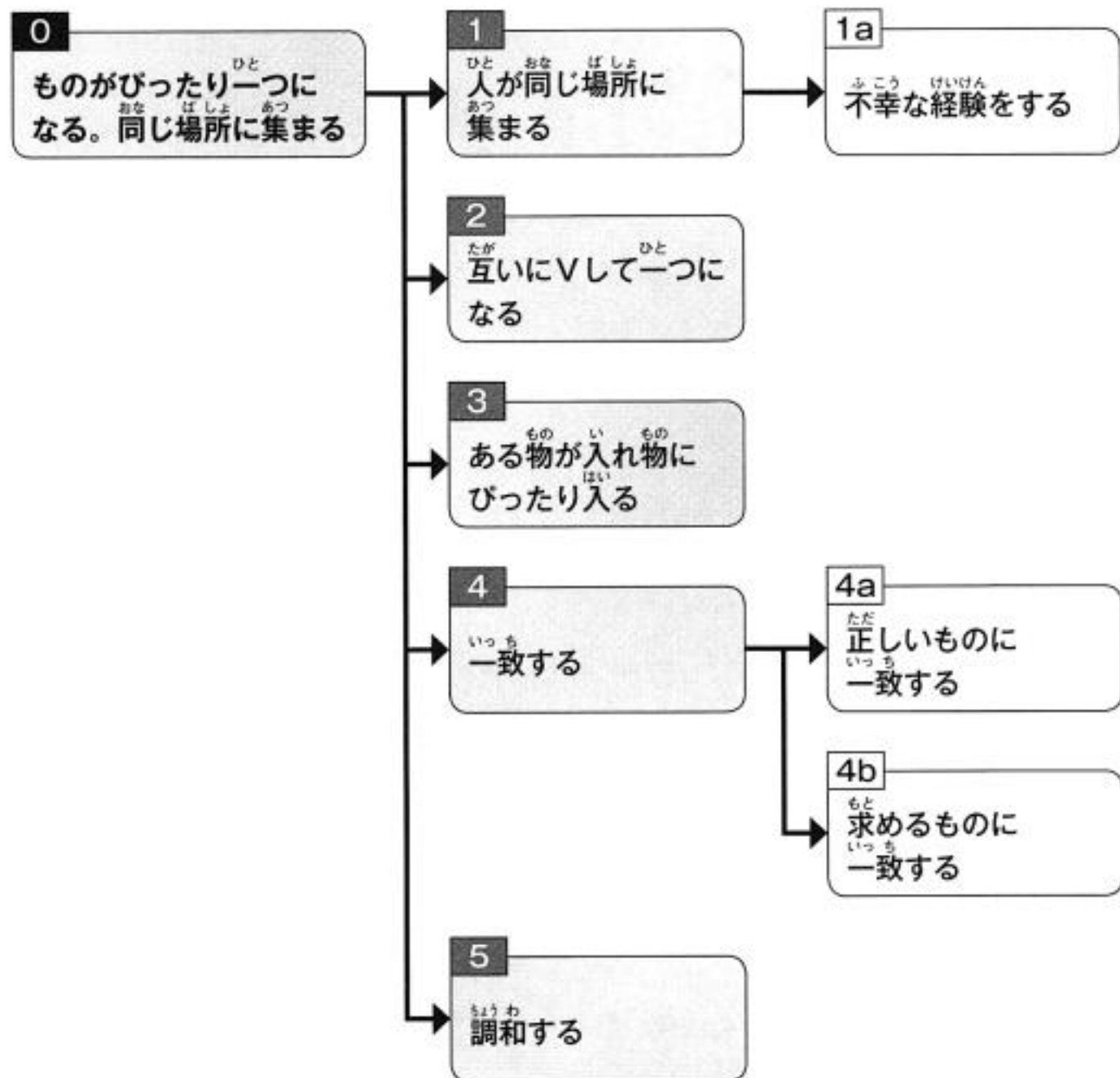
あう

合う、会う、遭う、逢う、会う ※「会う」は特別な読み方

ゴウ(集合)、ガツ(合致)、カツ(合戦)、あ(合わす、合わせる)

動I 自

⑤



0 (二つ以上の) ものがぴったり一つになる。同じ場所に集まる

(two or more things) join as one/meet / (둘 이상의) 것이 딱 붙어 하나가 되다 · 같은 곳에 모이다
/ (两个以上的) 东西正好吻合、集中在一起



- 右手と左手がぴったり合った。
- 二人の目／視線が合った。

1 (二人以上の) 人が同じ場所に集まる

(two or more people) meet/get together / (두 사람 이상이) 같은 장소에 모이다 / (两个以上的) 人
集中在同一处

? 特に人が同じ場所に集まる場合



- ここは、彼と彼女が毎日会う場所です。
- 彼は小学校の先生に／と会った。

* **1** の用法では、漢字は「会」「逢」を用いる。

- 巡り会う **動1** : ずっと会えなかった人とようやく出会う
例) 国籍の違う二人は東京で巡り会った。

1a 不幸な経験をする

encounter/suffer (a misfortune) / 불행한 경험을 하다 / 经历不幸的事

? 嫌な人に会うように、嫌な出来事に遭うから



- 交通事故に遭う。
- 旅行中、ひどい目に遭った。

* **1a** には、「～目に遭う」の形で、「ひどい／つらい／不幸な目に遭う」のように用いる用法がある。また漢字は普通「遭」を用いる。

2 ≪Vます+合う≫ (二人以上の人) 互いにVして一つになる

(two or more people) do V to/with each other / (둘 이상의 사람이) 서로 V 하여 하나가 되다 / (两个以上的人) 相互做某一动作, 成为一体

? 二人が同じ動作をして一つになる



- 話し合う 動I: 議論する 例) 対策を話し合う。
- 愛し合う 動I: 互いに愛する 例) 愛し合う二人。
- 打ち解け合う 動I: 緊張が解けて親しくなる
例) 二人は急速に打ち解け合っていた。
- 落ち合う 動I: 約束をして、ある場所で会う
例) 駅前で落ち合う。
- 関わり合う/係わり合う 動I: 関係する
例) 周囲の人と関わり合う。
- 付き合う 動I: ①交際する
例) 今、ある男性と付き合っています。
②一緒に何かをする 例) 買い物に付き合う。
- 触れ合う 動I: ①互いに触れる ②親しく交わる
例) 両国の学生が触れ合う。

≪Vます+合い≫

- 折り合い 名: 譲歩。妥協
- [お]見合い スル: ある人から結婚相手を紹介されて会うこと
cf [お]見合い結婚 名

3 ある物が入れ物にぴったり入る

(something) fits (in something else) / 어떤 물체가 공간에 딱 맞게 들어가다 / 某个物品正好放入某空间内

? 物と入れ物がぴったり一つになる場合



- 25.5cmの靴が私の足に/とぴったり合う。
- (ジグソーパズルで) ここに合うピースはどこ?

「著作権保護コンテンツ」

4 (二つのものが) 一致する

(two things) match/are in sync / (두 개가) 일치하다 / (两个东西) 保持一致

? ぴったり一つになるように一致する



- 彼と私は意見がよく合う。
- うまくタイミングが合わない。

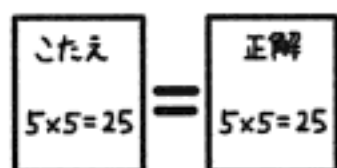
例 息/呼吸が合う：何かをする時、二人の心が一体になっている

例 二人は気/馬/肌が合う：相性がよい。気持ちが一つで仲がよい

4a 正しいものに一致する

be correct / 바른 것과 일치하다 / 和正确的相一致：准，对

? 一方が「正しいもの(基準)」で、他方がそれに一致する場合



- 答え合わせをしたら解答に／と合っていた。
- 計算が正解に／と合わない。
- カメラのピントが合っていなかった。

例 合鍵：本当の鍵と同じ形に作った予備の鍵。スペアキー

4b 求めるものに一致する

fit/suit (a certain need/preference) / 원하는 것과 일치하다 / 和要求的東西对上

? 一方が「求めるもの(基準)」で、他方がそれに一致する場合



- 彼は私の好みに／とぴったり合っている。

例 口に合う：嗜好に合う

例 割に合わない：満足できない。充分でない

例) こんな安い給料では、割に合わない。

5 ^{ふた}(二つのものが) ^{ちやうわ}調和する

(two things) are in harmony / (둘이) 조화되다 / (两个东西) 相配

? ^{ひと}ぴったりと一つになるように ^{ちやうわ}調和する


- ^{かのじょ}彼女は ^{じぶん}自分に / ^あととても合っている。
- このネクタイはワイシャツに / ^あと合わない。

 ^{にあう}似合う **動I** : よく ^{ちやうわ}調和する 例) 白がよく ^{にあう}似合う。

 ^{さいさん}採算が ^あ合う : ^{しうにゆう}収入と ^{ししつ}支出の ^あバランスがとれている

 ^あつじつまが ^あ合う : ^{ふた}二つの ^{はなし}話が ^{むじやく}矛盾しない

関連語句

 ≪Vます+ ^あ合わせる≫

- ^{いあ}居合わせる **動II** : ^{ぐうぜん}偶然、^{おな}同じ ^{ばしょ}場所にいる
例) ^{じこげんば}事故現場に ^{いあ}居合わせた ^{ひと}人はいなかった。
- ^{まちあ}待ち合わせる **動II** : ^あ会う ^{やくそく}約束をして ^{まち}待つ
例) 2時に ^じ駅で ^{まちあ}待ち合わせる。
- ^{みあ}見合わせる **動II** : ^{ちゆうだん}中断する 例) ^{れっしや}列車の ^{うんてん}運転を ^{みあ}見合わせる。

 ≪N/Vます+ ^あ合わせ≫

- ^{かおあ}顔合わせ **スル** : ^{たが}互いに ^{はじ}初めて ^あ会って ^し知り ^あ合いになること
- ^{めぐあ}巡り合わせ **名** : ^{うんめい}運命
- ^{みあ}見合わせ **名** : ^{ちゆうだん}中断・^{ちゆうし}中止

- きちっ：①ゆるみがなく合っている様子 例) ふたがきちっと合わない。
②条件や基準に合っている様子
例) 音程とリズムがきちっと合うまで歌の練習をする。
- しっくり：よく合う様子 例) 部屋にしっくり [と] 合う色のカーテンを選ぶ。
- ぱったり：突然出会う様子 例) 駅でぱったり彼女に会った。
- ぱっちり：ちょうど合う様子
例) 彼と目がぱっちり合った。 例) 彼とは価値観がぱっちり合う。
- ぴ[っ]たり：すきまなく合う様子 例) タイミングがぴったり [と] 合う。

用法ノート✎ 「あう」は「AとBがあう」「AがBにあう」「AがBとあう」の3通りの文が可能である。AとBを第三者の視点から対等に扱う場合は「AとBがあう」を用い、Aの視点から述べる場合には「AがBにあう」「AがBとあう」を用いる。

文化ノート✎ 視線を合わせる：人と話をするときは、相手の目を見て話すのが原則であるが、相手を見続けると威圧感を与えるためよくないとされている。適宜、視線を下に外すのがよい。また、日本語で話す際には相手の話を聞いているサインとして、聞きながら相槌を打つことも大切である。